

### 死にゆくセント・マーガレット—ハンドアウト

『タイムズ』紙の投書欄 1914年5月13日

「死にゆくセント・マーガレット」の冒険を始める時、探索者はこの手紙の内容をすでに知っていることとする。

## The Times

1914年5月13日

### 投書欄

#### 流れ星

拝啓。昨夜11時を過ぎて間もなく、並外れた大きさと輝きを持った隕石がひとつ、南東の空を落ちていくのが見えました。隕石はおおぐま座を通り、おおむね南西の、ちょうどその位置にあった土星の方向へと向かいました。色は白く明るさは驚くほどでしたが、長く引く尾は火のような赤色でした。ちょうど丘の頂上から右側へ向けてまるで大きな標識のように上っていた火星よりも大きく見えました。

間違いなく、この素晴らしい現象は、突然の異常な気候の変化と関係しています。ここ数週間は騒々しく嵐のような天気が続いていましたが、一夜明けると一転、今朝は強い霜が降りていましたし、昼間は強い風こそありましたが、素敵な日が差していました。農夫たちも心強いことでしょう。私は……

アレクサンダー・スコット

## 『アストロノミカル・ミーディアム』—抜粋

「死にゆくセント・マーガレット」の冒険を始める時、探索者はこの手紙の内容をすでに知っていることとする。

## アストロノミカル・ミーディアム

「筆者は今回の事象において、聖典が付随的に伝えている以上の直接的な情報を我々が何ひとつ持ち得ぬ主題に関する一連の思考が、理論的あるいは仮説的なものであると明言し、我々の宗教的信条に干渉したり、それにとって代わることが許されると考えてでもいるかのように、筆者の意図を誤読されることがないように願っている。したがって、以下の内容は単なる憶測に過ぎず、読者にとっては空想にしか思えないのだとしたら、著者は自分の文章が民話の改作に過ぎぬものと解釈していただければ幸甚である。そしてこの著作は、第一に読者の楽しみを、第二にその啓蒙を目的としたものである」

「……しかし我々は、芝居がかった霊能者たちや、より科学的な研究によって証明されたこれらの現象を理解し、キリスト教の信念と科学的手法に照らした解釈を試みねばならない。これらの現象が、この世のものでないことは明らかで、聖書でも言及されていないし、我々の先端科学の観点でも不可解だ。となると、霊媒や霊能者が愛してやまぬ霊というものが、実は別の星々から到来した存在なのではないかという推測を抱かざるを得なくなる。天文学的な距離を考慮すると、人類がこうした存在と接触することはありえないように思えるならば、古代に天より地へと降りきたり、地の底で休んだ生物について物語るフィンランドの民話を参照するとよい。実際そうした物語は決して珍しいものではなく、バヴァリア(バイエルン)地方の伝説にも似たような話がある」